

2020年(令和2年)1月28日(火曜日)

インド医師 高知大視察 がんの光線医療学ぶ

特別な光を使つてが
んの診断・治療などを
行う「光線医療」を学
ぶため、インド南部ハ
イデラバードの外科医
らが27日、高知大学医
学部付属病院(南国市
岡豊町小蓮)を訪問し
た。青い光でがんを光
らせ、取り残しがない
ように腫瘍を切り取る
手術を視察した。

同学部は光線医療の
技術をメインに扱う日
本初の「光線医療セン
ター」を2017年に
設置。泌尿器科や外科
などで手術実績を重ね
ており、国内外から視
察が訪れている。
今回は、光線医療の
導入を検討していると
いう「アポログループ
病院」のチナバブ・ス

ンカバライ医師と、医
薬品開発に携わるビク
ラント・トゥリパディ
を見学した。



光線医療を用いた手術を視察するチナバブ・ス
ンカバライ医師(左から2人目)
(27日午前、南国市の高知大学医学部付属病院)

手術室では、青色の
光を患部に当てると、
手術前に投与した天然
アミノ酸が反応し、が
んの部位が赤色に光る
様子を確認。電気メス
で小さな腫瘍も残さず
に切除する様子を真剣
な表情で見守った。
スンカバライ医師は
「がんの取り残しがな
く手術時間が早い。医
師の技術も高く、とて
も素晴らしい経験にな
った」。光線医療センタ
ーの井上啓史・副セン
ター長は「光線医療の
技術が世界に向けて発
信できてきた。インド
の病院との連携も深め
ていきたい」と期待を
込めた。(山本 仁)